けがをしない、させないために

ねんせい だいひょう がくしゅう はなし
6年生の代表から、プールでの学習のルールのお話がありました。

こうちょうせんせい き おも だ ろう か かいだん みぎがわ ある
校長先生が「ルール」と聞いて思い出すことは、「廊下や階段は右側を歩
きましょう」ということです。廊下や階段で、みんなが右側を歩けば、ぶつかること
はありませんね。

む ある ひと いま
では、向こうから歩いてくる人と、今にもぶつかりそうになったら、みなさんは
どうしますか。つぎ ふた えら て あ こた
次の二つから選んでみてください。手を挙げて答えなくてもいい
です。こた え じぶん なか ひと あいて
答えは自分の中にしまっておいてください。一つは、相手に「ぶつかるから、
どいてください」と言う。もう一つは、自分がよける。さて、どうしますか。

こうちょうせんせい じぶん かんが かいだん
校長先生は、自分がよけてしまえばよいと考えています。たとえば、階段の
て ひだり て ひと む
手すりを左手でしかつかめない人がこちらに向かってきたら、そのままだと、ぶ
つかります。しかし、どいてください、とは言えないですね。

たいせつ じぶん あいて ろう か かいだん
大切なことは、「自分も相手もけがをしないこと」です。それが、「廊下や階段
みぎがわ ある もくてき もくてき
は右側を歩きましょう」というルールの目的です。けがをしないという目的のた
めなら、ひだりがわ
左側によけることもある、というわけです。

じぶん はし かんが
これが、もし、自分が走っていたら、どうなるでしょう。よけようと 考えている
あいだ じぶん ある
間に、ぶつかります。自分が歩いていたなら、「あ、あぶないな。えっと、よけなきや
な。」と、よけるための時間があります。もし、走っていったら、「あ、あぶない。ごつ
ん。」となります。だから、ろう か かいだん はし
廊下や階段を走るの、もってのほかです。

じぶん あたま かんが じぶん こうどう
みなさんには、自分の頭でよく 考えて、自分から行動できるようになってほ
しいと思っています。おも こうちょうせんせい はなし お
校長先生のお話、終わります。